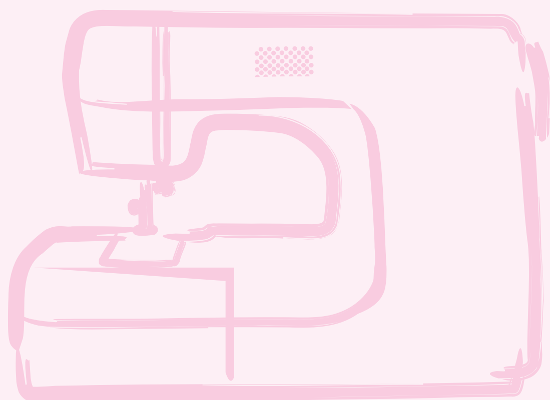
ご使用のしおり

《取扱説明書》



お買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に、この「取扱説明書」をよく
お読みいただき、正しくお使いください。

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
⊘	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
●	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の原因になります。

必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
禁　止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。 また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください
禁　止	曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。
注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
必ず実行	以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
必ず電源プラグを抜く	以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

★ご注意

本機種ではジグザグぬい（模様 07）の「ぬい目の幅」は、初期値5.0 としております。

これは付属のたち目かがり専用「C 押さえ」で、たち目かがりをする際に、ジグザグぬいを選択されても、針が「C 押さえ」の針金にあたるのを防ぐ目的があります。

ジグザグぬい（模様 07）で、「A 押さえ」を使用される場合は、試しぬいをして、ぬい縮みが出ないよう、「ぬい目の幅」や「ぬい目のあらさ」を調節して、ご使用ください。

・薄地の場合で、ぬい目の幅（3.0）、ぬい目のあらさ（2.0）が目安です。

※ 詳しくは、取扱説明書の 24、25 ページをごらんください。

◎目　　次

◎お取り扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

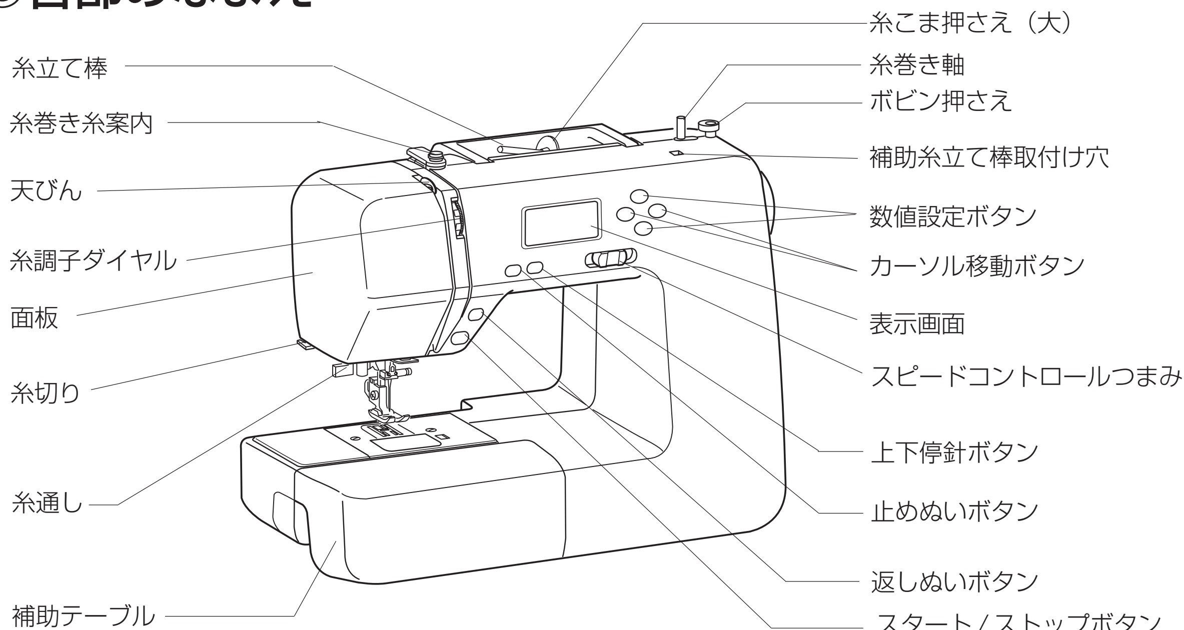
② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

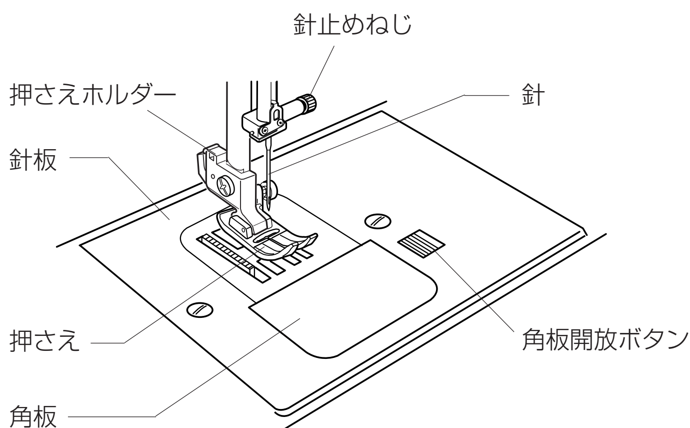
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

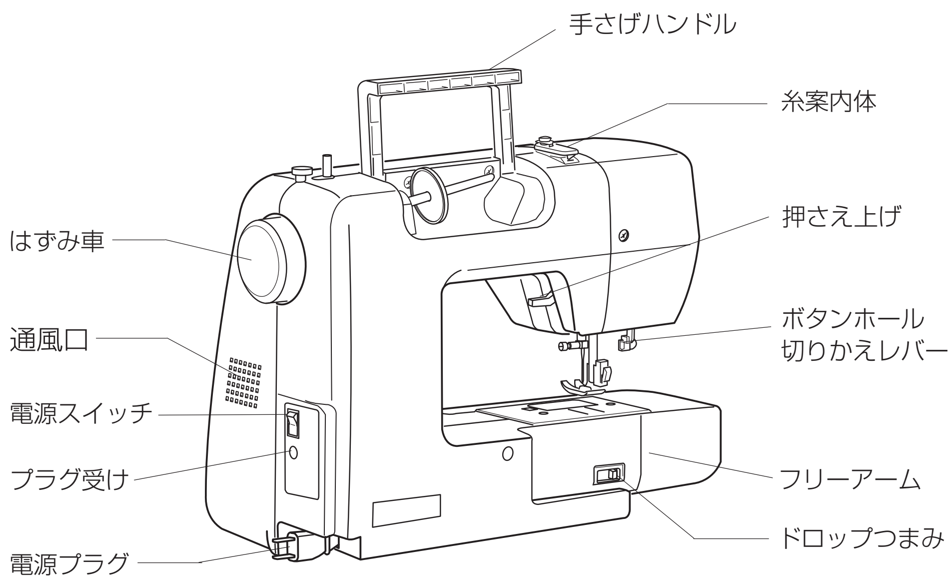
◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（41 ～ 42 ページ）により点検・調整を行ってください。

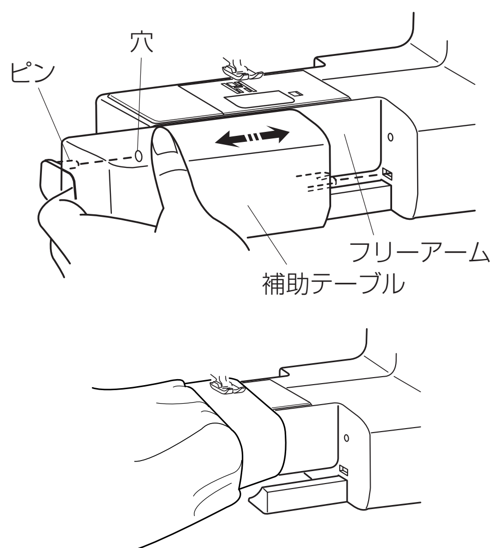
◎各部のなまえ


糸立て棒
糸巻き糸案内
天びん
糸調子ダイヤル
面板
糸切り
糸通し
補助テーブル
糸こま押さえ（大）
糸巻き軸
ボビン押さえ
補助糸立て棒取付け穴
数値設定ボタン
カーソル移動ボタン
表示画面
スピードコントロールつまみ
上下停針ボタン
止めぬいボタン
返しぬいボタン
スタート / ストップボタン


針止めねじ
押さえホルダー
針
針板
押さえ
角板
角板開放ボタン


手さげハンドル
糸案内体
押さえ上げ
はずみ車
通風口
ボタンホール
切りかえレバー
電源スイッチ
プラグ受け
フリーアーム
ドロップつまみ
電源プラグ

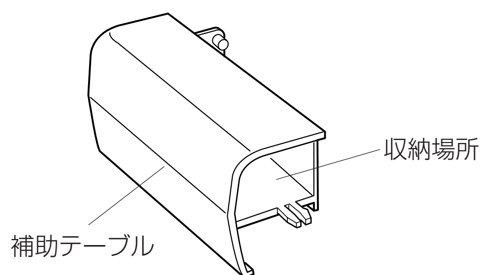
◎補助テーブル



【補助テーブルの外し方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

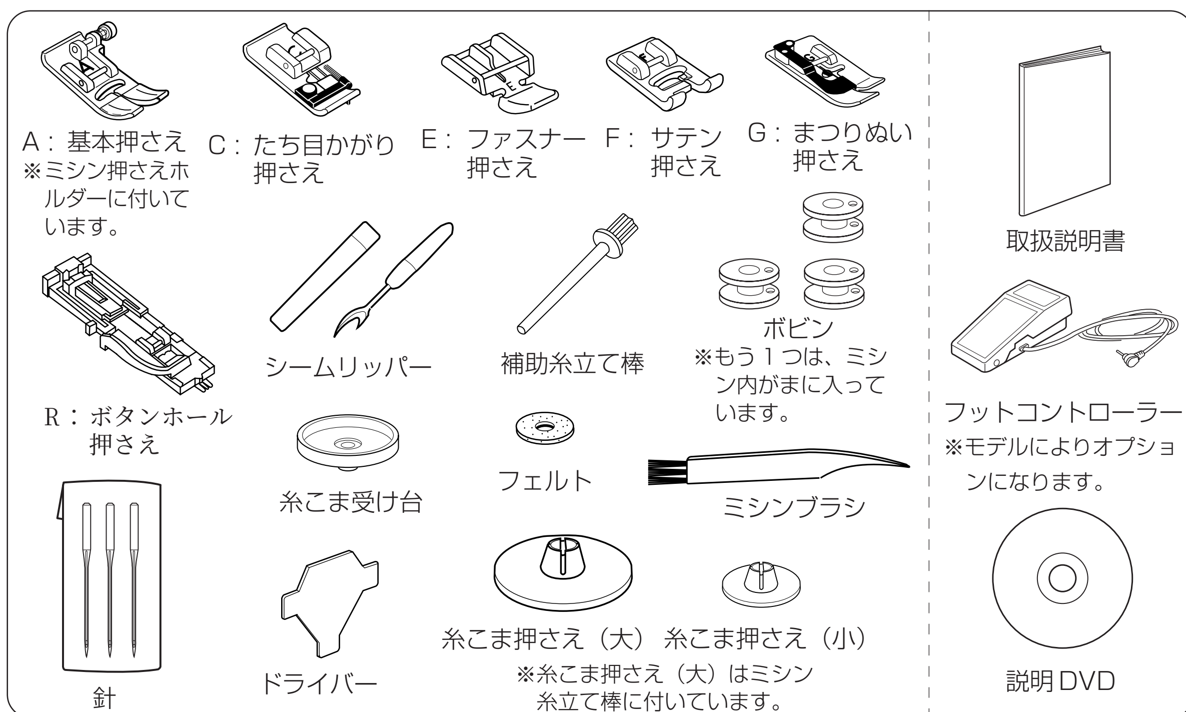


【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

◎標準付属品と収納場所

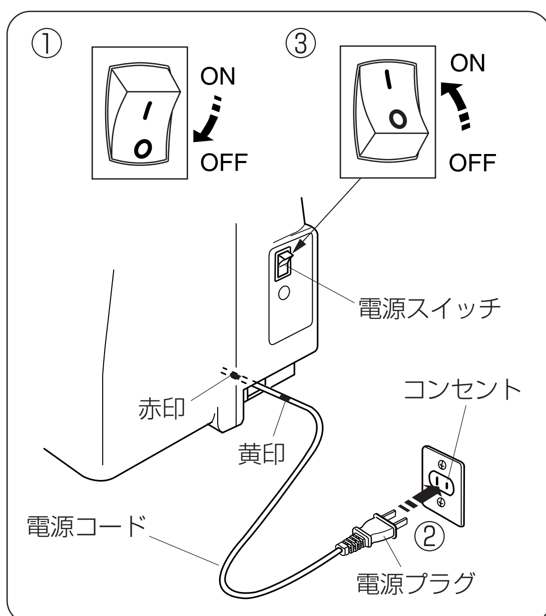
補助テーブルの中に、押さえ等の小物が収納できます。



◎基本操作

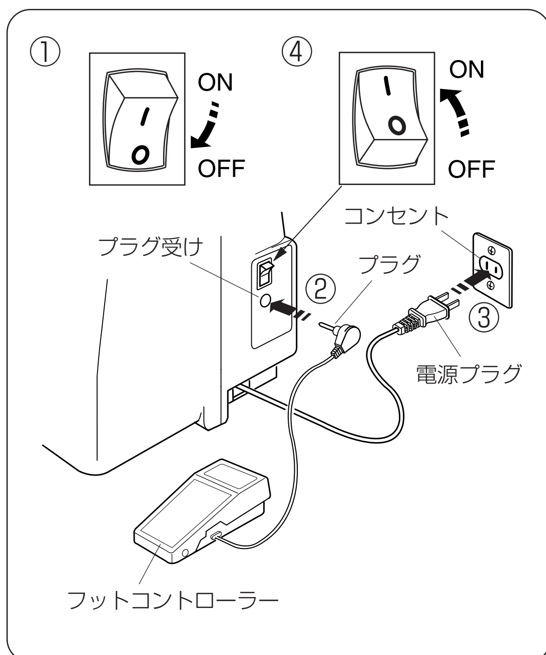
●電源のつなぎ方

⚠ 警告
• 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。 ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 **感電・火災の原因になります。** • 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。 ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり**火災の原因になります。**



★スタート/ストップボタン使用のとき

①電源スイッチを「OFF」（切）にします。
②電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
③スイッチを「ON」（入）にします。
※電源コードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。黄印が出たら 30cm ぐらいで、赤印になります。



★フットコントローラー使用のとき

（※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。）

①電源スイッチを「OFF」（切）にします。
②フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
③電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
④電源スイッチを「ON」（入）にします。

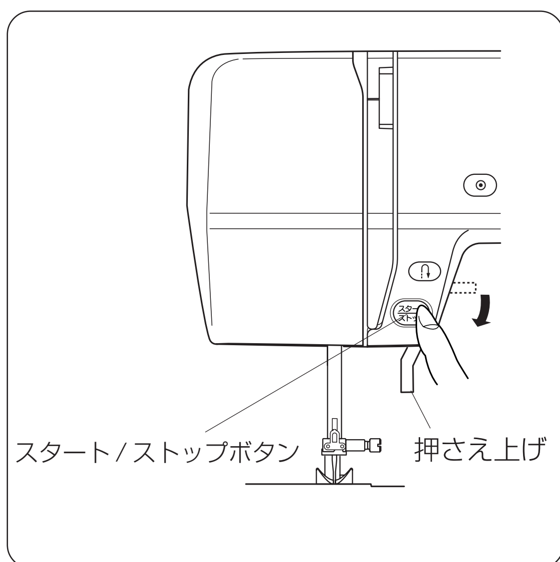
※ フットコントローラーを接続したときは、スタート/ストップボタンは使えません。

フットコントローラー表示



フットコントローラーを接続すると、表示画面にフットコントローラー表示されます。

●スタート / ストップボタン

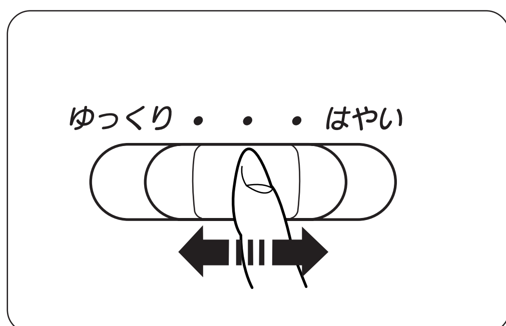


ボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。
もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。
※スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ（手をはなすまで）は、低速で動きます。
※スタート/ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

●速さの調節のし方

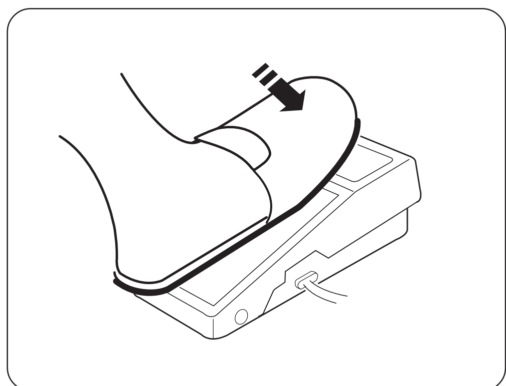
ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。

★スピードコントロールつまみ



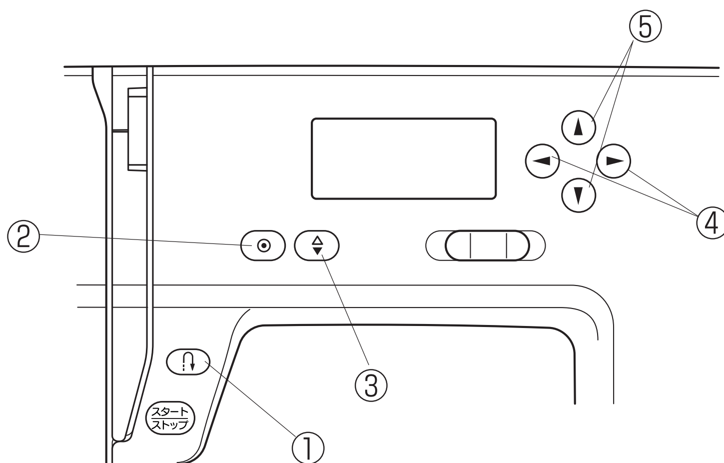
ぬう速さは、自由にセットできますので、スピードコントロールつまみを、お好みの速さにセットしてください。

★フットコントローラー



フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。
フットコントローラーを一杯に踏み込んだときの最高速度は、スピードコントロールつまみのセットした位置で決まります。
※通常、スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてお使いください。
※フットコントローラーを接続したときは、スタート / ストップボタンは使えません。
※フットコントローラーの上に物を乗せないでください。

●操作ボタンの主なはたらき



①返しぬいボタン



【運転中の返しぬい】

模様 00 01 07 08 は、ぬっている途中でボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをします。
その他の模様のときには、すぐに数針止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】

（フットコントローラーを接続しているときは、使用できません。）

模様 00 01 07 08 は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと止まります。

②止めぬいボタン



模様 00 01 07 08 は、ボタンを押すと止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様のときには、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。
※ぬう前にボタンを押しておくと、模様を１つぬって自動的に止まります。

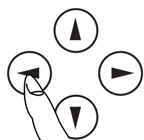
③上下停針ボタン



ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。
※上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンをとめたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。（電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。）
※下位置に切りかえておいても、糸切り後と模様（ 10 11 12 ）は、ぬい終わったときには、上位置で止まります。

④カーソル移動ボタン



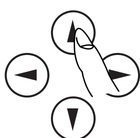


カーソル

モード（模様、ぬい目の幅、ぬい目のあらさ）を設定するときは、◄ ► ボタンを押します。
※◄左ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。
※►右ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

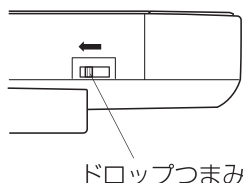
⑤数値設定ボタン

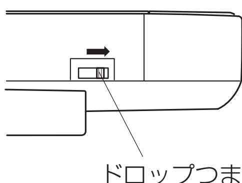




モードの数値を変更するときには、▲▼ ボタンを押します。
※▲ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。
※▼ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

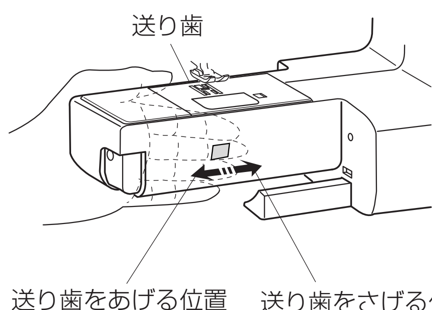
●送り歯のさげ方





ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯をさげます。

※終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

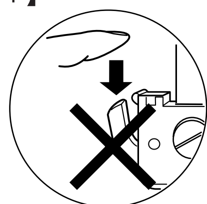


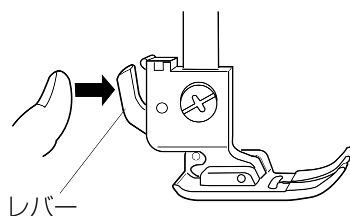


●押さえの取りかえ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行ってください。押さえは、模様に合ったものをご使用ください。 押さえが合っていないと、針が押さえにあたり、**けがの原因になります。**

【1】



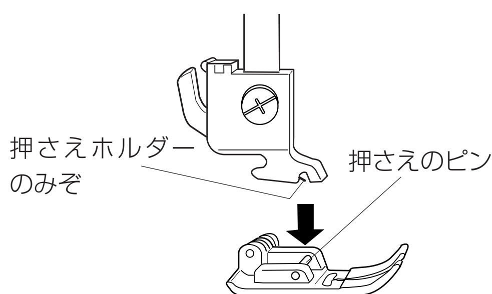


【1】外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

※レバーを上から押すと、故障の原因になります。

【2】



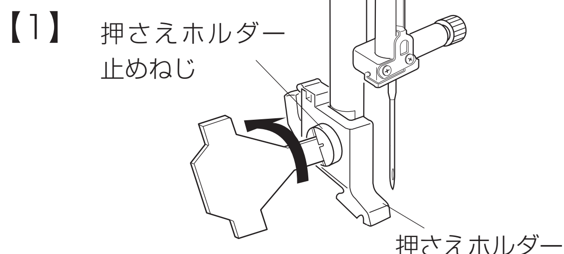
【2】付け方

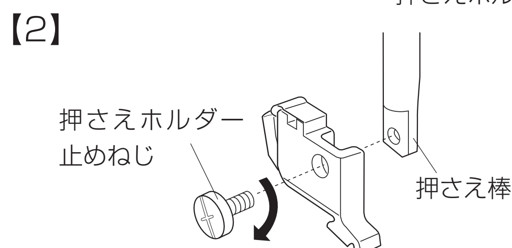
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーの外し方、付け方

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し、取り付けをするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。



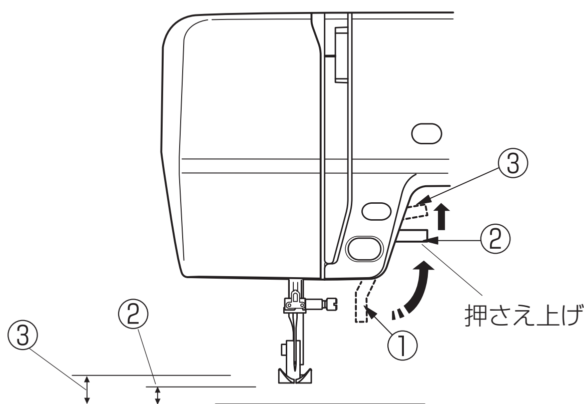


※ミシンのお手入れなどのときに外します。

【1】外し方
押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【2】付け方
押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

●押さえ上げ

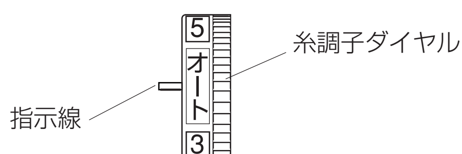


押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。
厚い布を入れるときにお使いください。

①さげた位置 .... 糸通し使用のとき、ぬいのときには、さげておきます。
②普通にあげた位置. 布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
③さらにあげた位置. 厚い布が入れやすくなります。

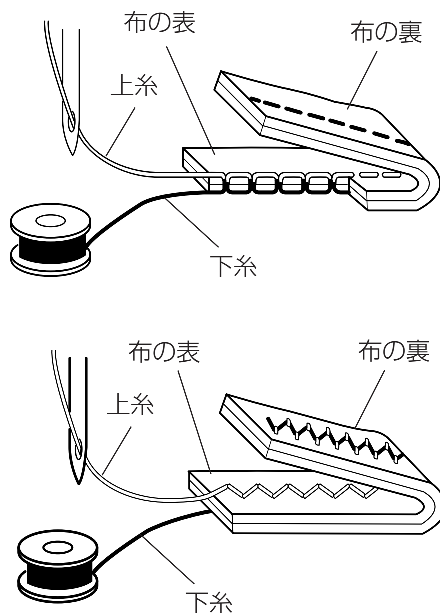
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランス良くぬえるように、自動セットされます。

【1】



【1】バランスのとれた糸調子

※直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

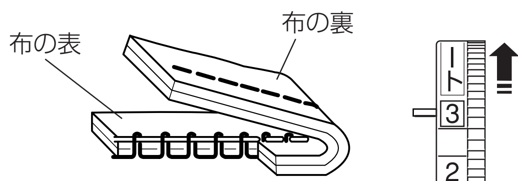
※ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【2】

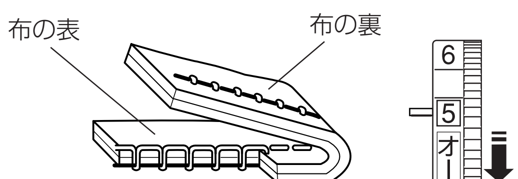


【2】上糸が強すぎるとき

下糸が布の表に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【3】



【3】上糸が弱すぎるとき

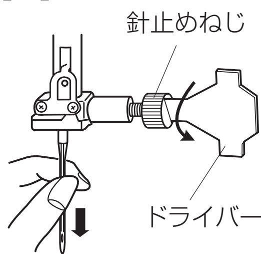
上糸が布の裏に出ます。

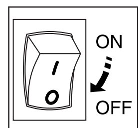
・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

●針の取りかえ方

> **⚠ 注意**
>
> 針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
> **けがの原因になります。**

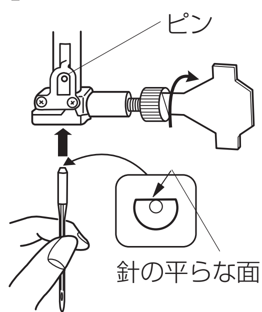
【1】



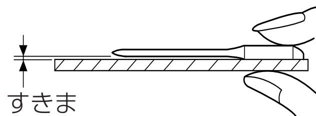


電源スイッチ

【2】



【3】



※針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】外し方

針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル　90番	９番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹　糸　50番 綿　糸　60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿　糸　50番	14番
厚い布	デニム ツィード コート地	絹　糸　50番 綿　糸　40番～50番 ポリエステル　40番～50番	14番～16番
		ポリエステル　30番 綿　糸　30番	16番

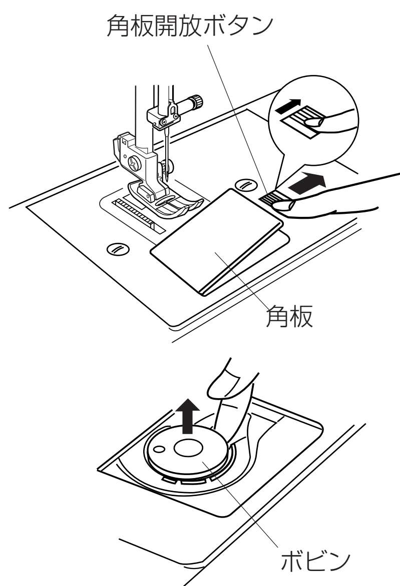
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、 試しぬいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、 ジャノメブルー針を使用すると防止効果があります。（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

●下糸の準備をしましょう

★ボビンを取り出します

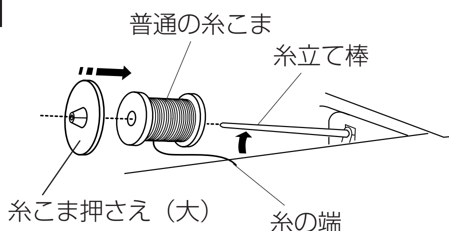


角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

※ボビンは、必ず専用ボビンをご使用ください。他の製品を使うと、ぬい不良、または故障の原因になります。

★糸こまをセットします

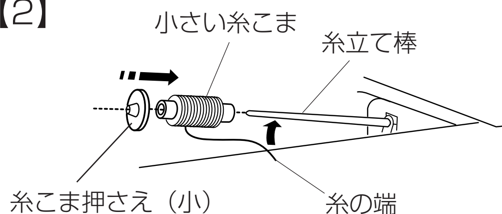
【1】



【1】 普通の糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。

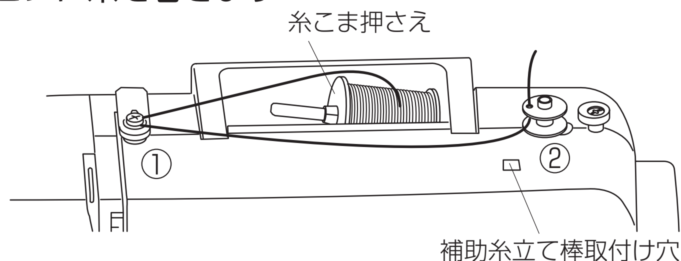
【2】



【2】 小さい糸こまのとき

小さい糸こまのときには、糸こま押さえ（小）を使ってください。

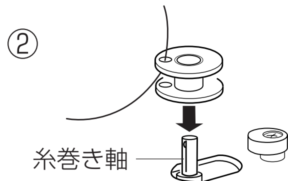
★ボビンに糸を巻きます



※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。



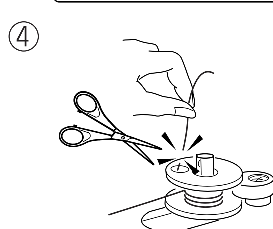
① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。



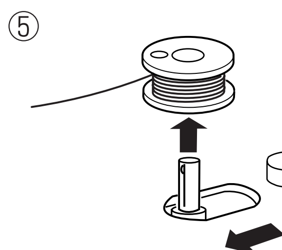
② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。表示画面に糸巻き表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

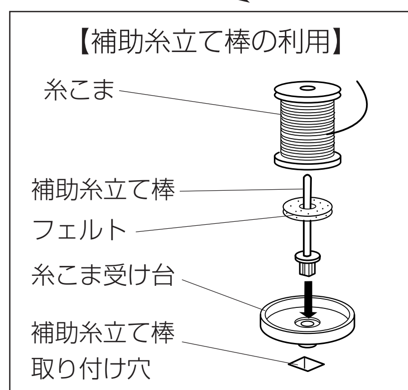


④ 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。



⑤ ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。
ミシンを止めます。糸巻き軸を戻し、糸巻き軸からボビンを外し、糸を切ります。

【補助糸立て棒の利用】



※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。
※糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約2分間で自動停止します。
※糸巻きには補助糸立て棒も利用できます。
補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。糸の端は糸こまの右側からうしろに出るようにします。

★ボビンを内がまにセットします

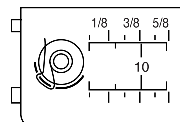
> **⚠ 注意**
>
> ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
>
> **けがの原因になります。**

①

ボビン
糸の端
内がま

① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。



②

手前のみぞ（A）

② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。

③

左側のみぞ
（B）

③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ（B）のところに出します。

④

左側のみぞ
（B）

④ 糸を左側のみぞ（B）にかけるように向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。

時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

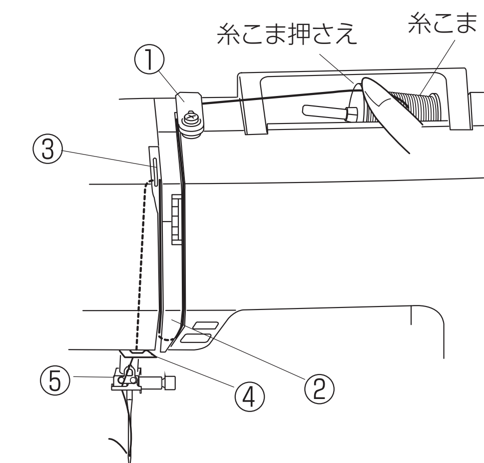
⑤

下糸
角板の左側を合わせる

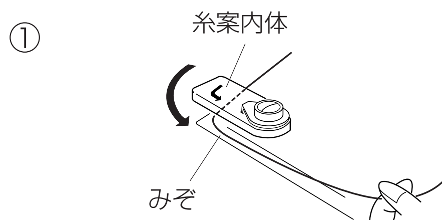
⑤ 下糸は10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

●上糸の準備をしましょう

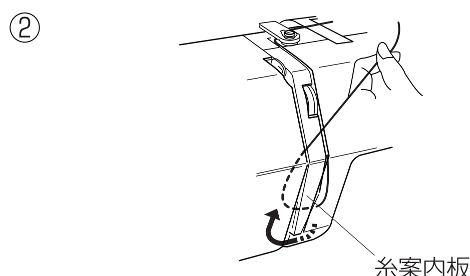
★上糸のかけ方



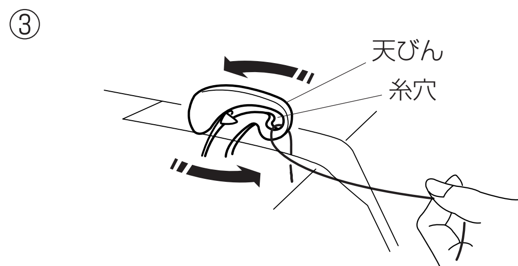
①



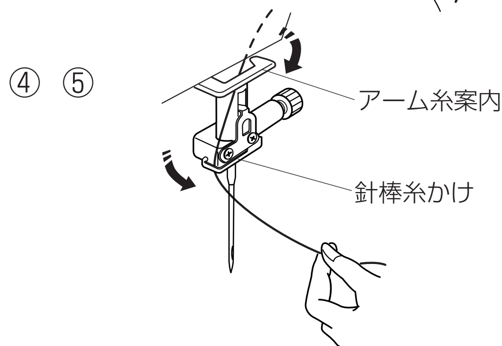
②



③

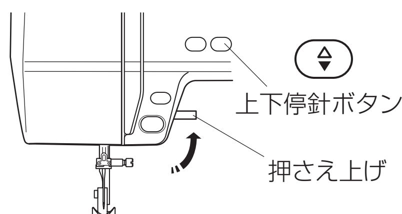


④ ⑤



【お願い】 はじめに、準備を必ず行ってください。ぬい不良の原因になります。

【準備】



1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源を入れ、上下停針ボタンを押して針を上にあげます。
3. 電源を切ります。

⚠ 注意

準備が終わったら、必ず電源スイッチを切ってください。**けがの原因になります。**

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押えながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こまから出ている糸を押さえて、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

※ 押さえ上げがあがっていないと、正しく糸が通らないのでぬい不良の原因になります。押さえ上げがあがっているか確認してください。

③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

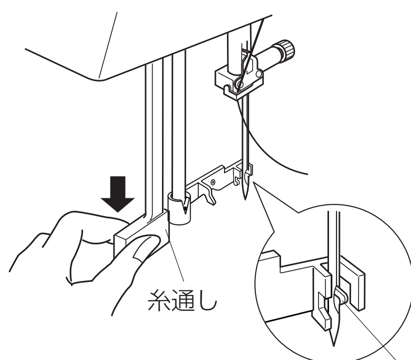
④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

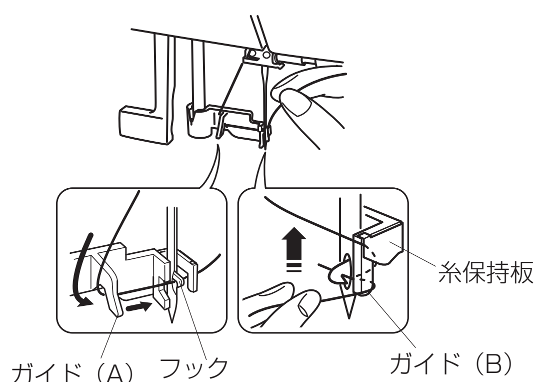
※ 針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、17ページをごらんください。

★糸通しの使い方

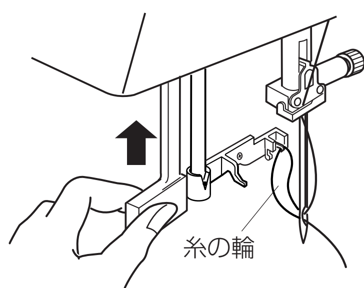
①



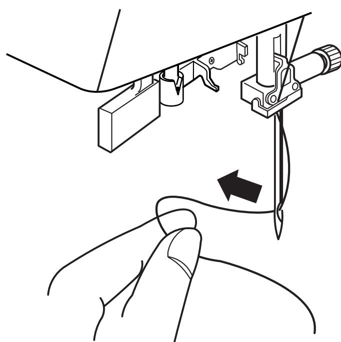
② ③



④



⑤



⚠ 注意

糸通しを使うときには、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

※ 針は、11 番～ 16 番
糸は、50 番～ 90 番が使えます。

① 押さえ上げをさげ、針をあげます。
糸通しを止まるまで引きさげます。
糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

② 糸を左側からガイド（A）とガイド（B）にかけます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。

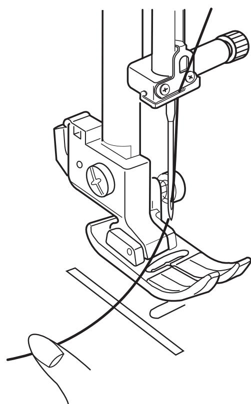
③ 糸をガイド（B）の右から手前にまわして、そのままガイド（B）の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

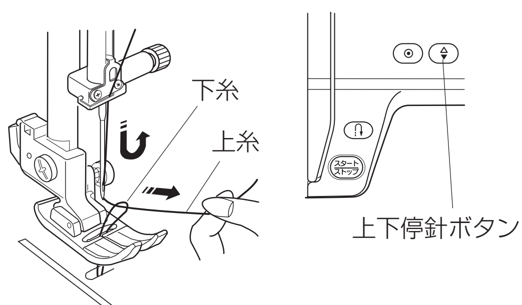
★下糸を引きあげます

①



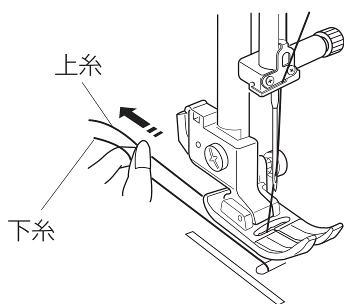
① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②



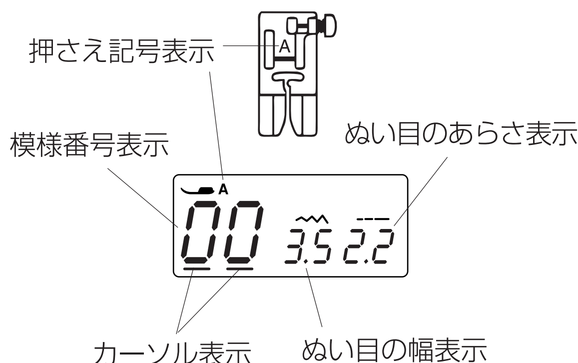
② 電源を入れ、上下停針ボタンを２回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

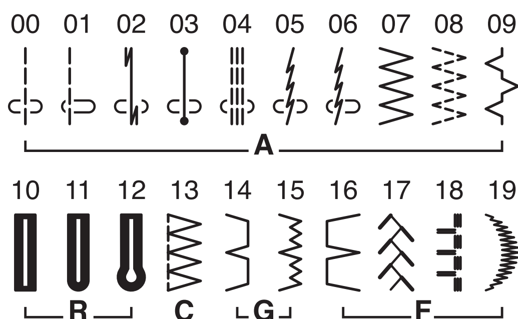
③



③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約10cmほどうしろにそろえて引き出します。

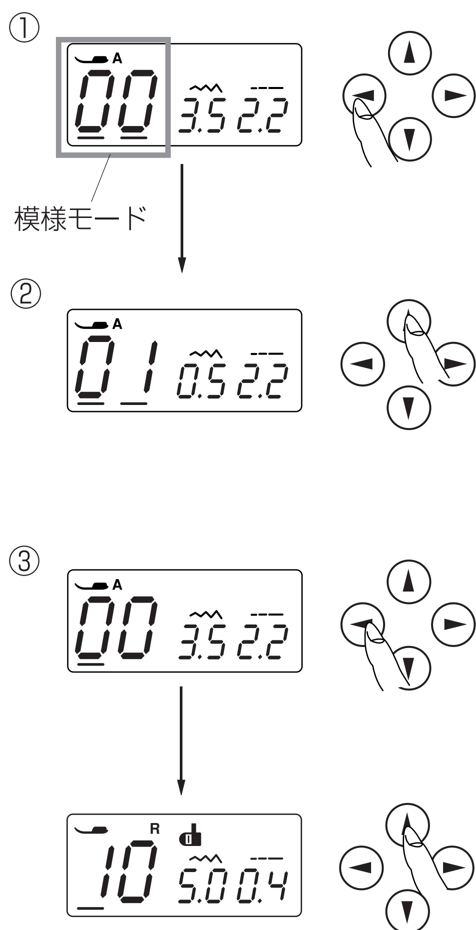
●表示画面の説明





※ 模様の下にあるアルファベットは、模様をぬうときに使用する標準的な押さえの記号を表示しています。

●模様の選びかた



▲▼ ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。

① ◄ ► ボタンで模様モードを選びます。

② カーソルが2つあるときに、▲▼ ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。

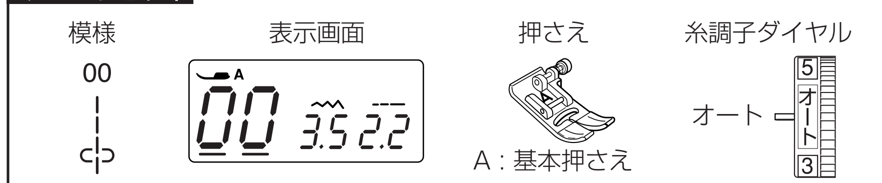
③ ◄ ► ボタンの ◄ を押して、カーソルを１つにして、▲▼ ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあらさの変更は、22、24 ページをごらんください。

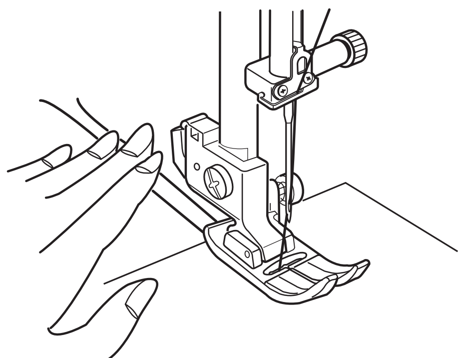
◎実用ぬい

●直線ぬい

ミシンのセット

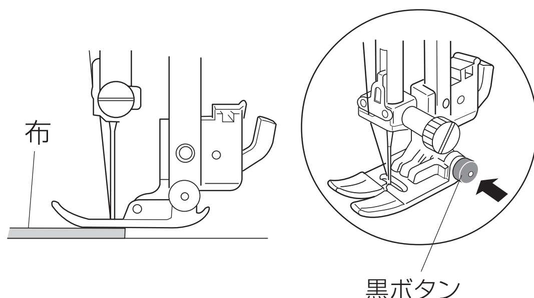


★ぬい始め



糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ぬい始めます。
※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様 02 と自動止めぬい模様 03 を使う方法があります。（23 ページをごらんください。）

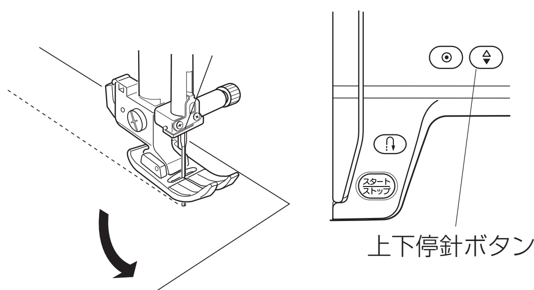
★厚手の布端のぬい始め



① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。
黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

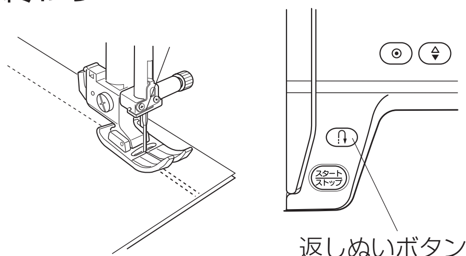
★ぬい方向の変更

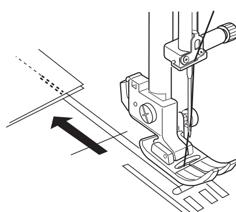


ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わり

【1】



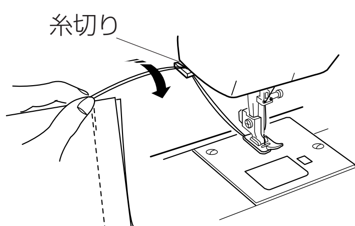


【1】返しぬい

返しぬいボタンを押しながら、数針返しぬいをします。

※ぬい終わりのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様 02 と自動止めぬい模様 03 を使う方法があります。(23 ページをごらんください。)

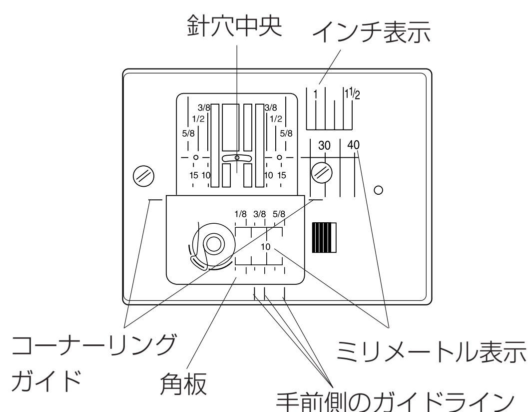
【2】



【2】布の引き出し方

針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】



【3】糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

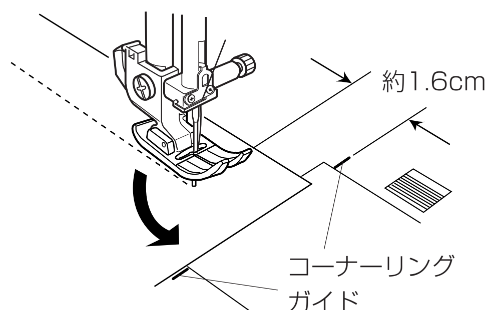
●針板ガイドラインの利用

針板、および角板には針穴中央からの長さを表示しています。

※ ガイドラインの数字は針穴中央からガイドラインの間かくを「ミリメートル」と「インチ」で示します。

※ 針板の手前側にもガイドライン左から 0.6cm(1/4)、0.9cm(3/8)、1.6cm(5/8)を表示しています。

布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。



【コーナーリングガイドの利用】

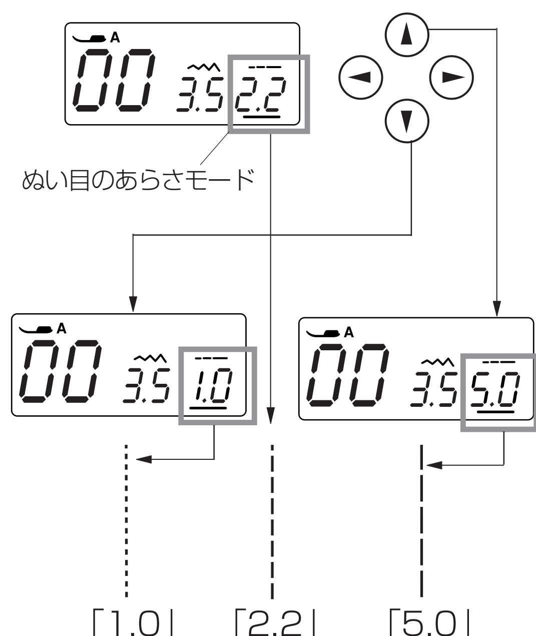
布端から1.6cmのところで直角にぬい方向をかえるとき

① 布端がコーナーリングガイドのところにきたら、ミシンを止め、はずみ車をまわして針を布にさします。

② 押さえをあげ、布を回転させてガイドラインの 1.6cm(5/8)に合わせます。

③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

●ぬい目のあらさをかえるとき



◄ ►ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は2.2です。

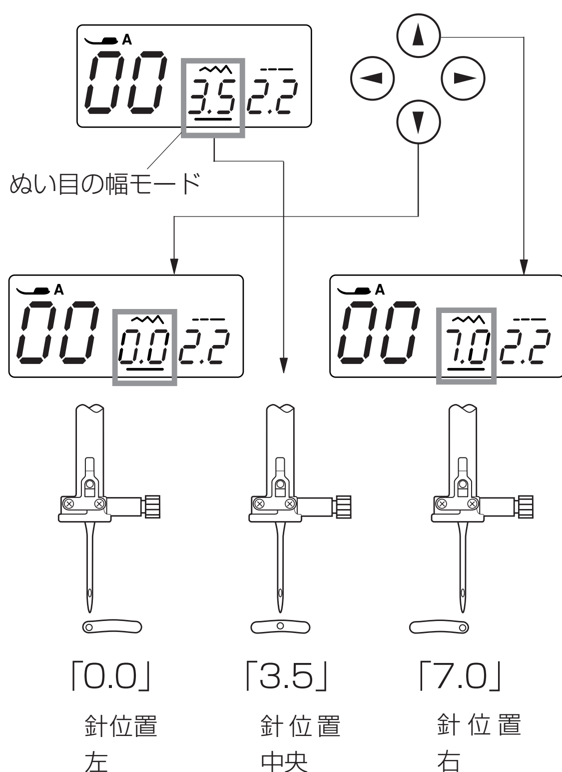
※0.0～5.0のはんいでかえることができます。（0.0から1.0に、1.0から1.5に、1.5から1.8にかえることができます。1.8から3.0まで0.2ずつかえることができ、また3.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）あらさの単位は、mmです。

「▼ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

「▲ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。

※返しぬいのぬい目あらさは、4.0mm以上にはなりません。

●針位置をかえるとき



※直線状のぬい目、模様 00 01 02 03 04 は、針位置をかえることができます。

◄ ►ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は3.5です。

※模様01の初期値（購入時のセット状態）は0.5です。

※0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

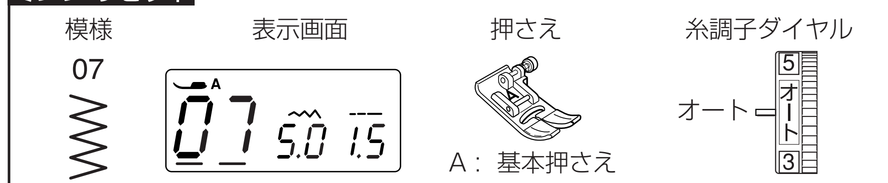
「▼ボタン」を押すと表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。

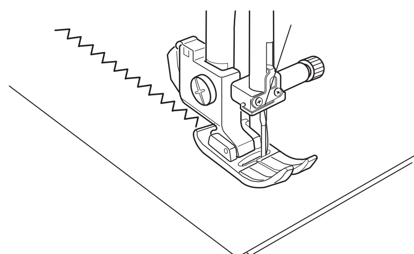
「▲ボタン」を押すと表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

●直線状のぬい目

ミシンのセット	用途
地ぬい 模　様：00　01 押さえ：A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル：オート	地ぬいや、ファスナー付けなどに利用します。 ※模様 01 は、端ぬいに利用します。
自動返しぬい 模　様：02 押さえ：A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル：オート	しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。 ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。 ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。 数針返しぬいをして自動的に止まります。
自動止めぬい 模　様：03 押さえ：A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル：オート	目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。 ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。 ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。 止めぬいをして自動的に止まります。
三重ぬい 模　様：04 押さえ：A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル：オート	伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに利用します。
伸縮ぬい 模　様：05　06 押さえ：A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル：オート	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。 また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。 ※模様 06 は、うす地のニット素材に利用します。

●ジグザグぬい

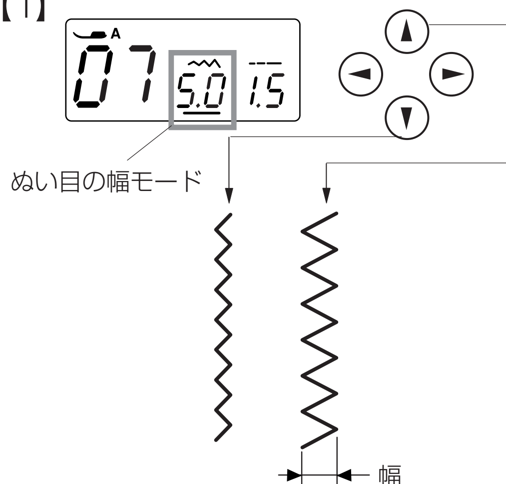




ジグザグぬい（模様07）で「A押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目のあらさを調節して、ご使用ください。
（薄地の場合で、ぬい目の幅3.0、ぬい目のあらさ2.0が目安です。）

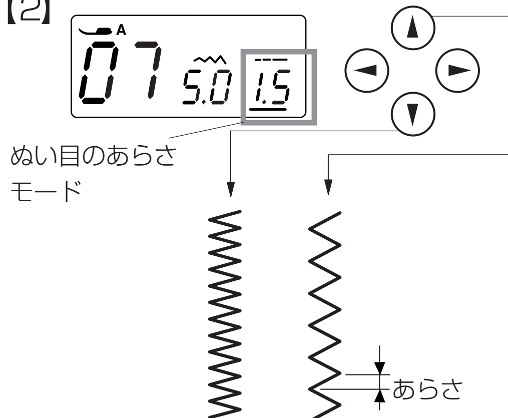
ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろいろなぬい方ができます。
※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の幅・あらさをかえるとき



【1】ぬい目の幅をかえるとき

◄ ► ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は5.0です。
※0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。
「▲ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、幅が広くなります。
「▼ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、幅がせまくなります。

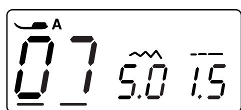
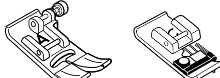


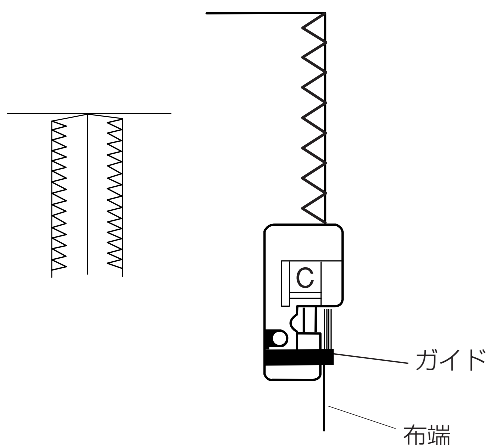
【2】ぬい目のあらさをかえるとき

◄ ► ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は1.5です。
※0.2～5.0のはんいでかえることができます。
（0.2～1.0まで0.1ずつ、1.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）
「▲ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、あらさがあらくなります。
「▼ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、あらさが細かくなります。

●たち目かがり

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
07 		 A：基本押さえ　または C：たち目かがり押さえ	オート 



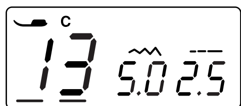
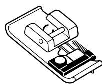
布端をたち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。
布端のほつれ止めとして広く利用します。

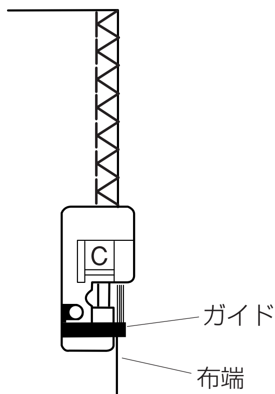
※たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

> ⚠ **注意**
>
> たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は4.5以下では使用しないでください。針が針金にあたり、**けがの原因になります。**

「A押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目のあらさを調節して、ご使用ください。

ミシンのセット

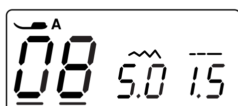
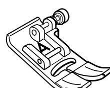
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
13 		 C：たち目かがり押さえ	オート 

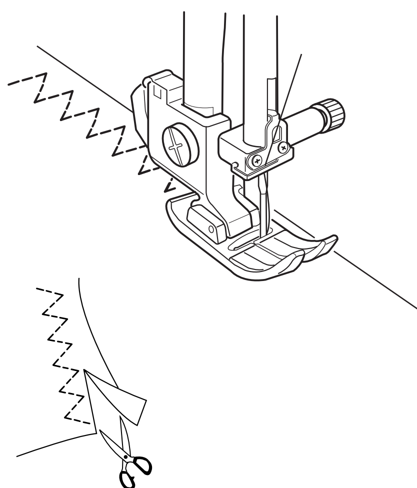


地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに利用します。
布端をガイドにあててぬいます。
※ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

●トリコットぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
08 		 A：基本押さえ	オート 



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

●ボタンホール

★ボタンホールの種類

10	◎スクエア（両止め） 普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
11	◎片ラウンド 普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。
12	◎キーホール（鳩目穴） 普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

★ボタンホール 10（スクエア）のぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
10	R 10 5.0 0.4 ボタンホール切りかえレバー表示	R：ボタンホール押さえ	オート

※ボタンホールを選ぶと、表示画面にボタンホール切りかえレバー表示されます。
ボタンホールをぬうときには、ボタンホール切りかえレバーをさげてぬいます。

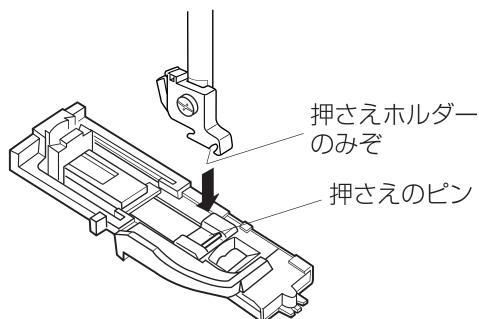
※ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。（28 ページをごらんください。）

※ボタンの直径が 1.0 ～ 2.5cm までのボタンホールができます。

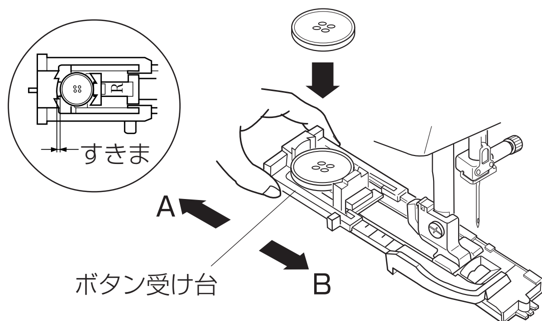
※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。

※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①

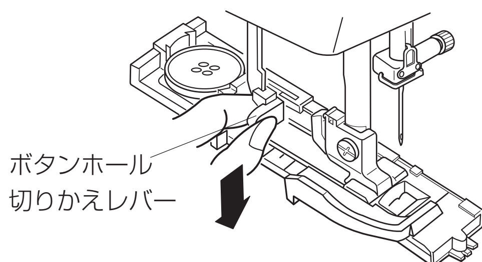


① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

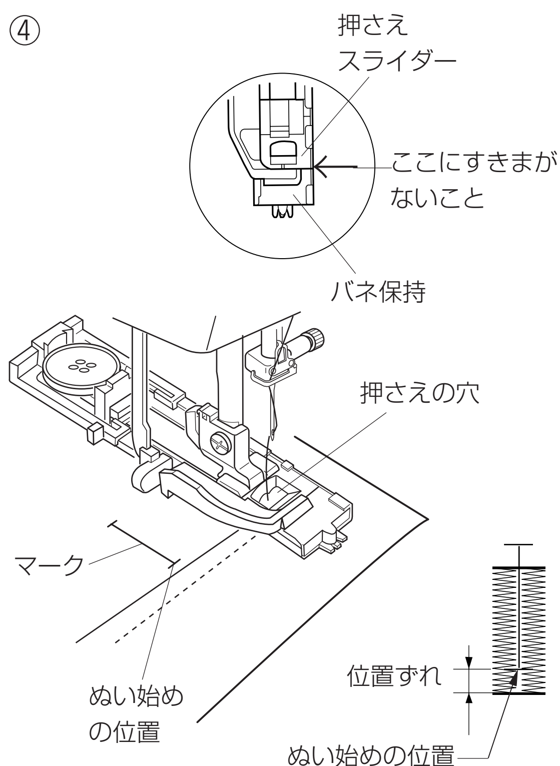


② ボタン受け台をA方向に引き、ボタンをのせてB方向に戻し、はさみます。

※ ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

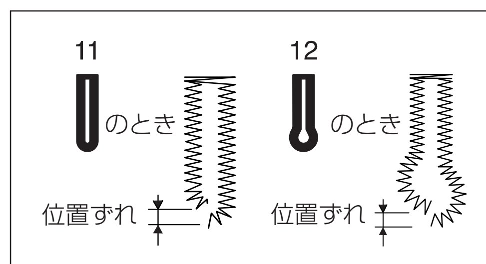


③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。



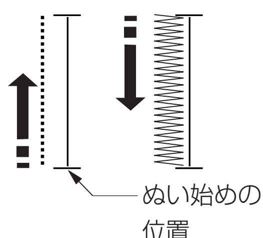
④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

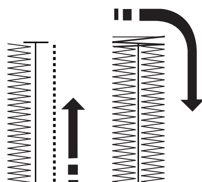
※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。
ぬい始めの位置ずれになります。

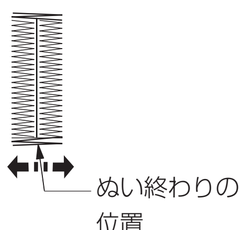


⑤ ミシンをスタートしてぬいます。

[ぬっていく順序]

【1】


【2】


【3】


【1】第1ステップ ...... 下ぬいをし、左側のラインラックをぬいます。

【2】第2ステップ ...... 下ぬいのあと、かんぬきと右側のラインラックをぬいます。

【3】第3ステップ ...... かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

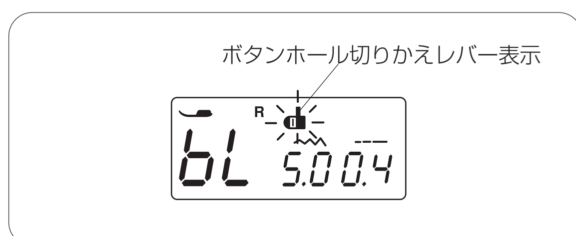
★ボタンホール重ねぬい

ボリューム感のあるボタンホールができます。

一度目のボタンホールをぬい終わったら押さえ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。
自動的に重ねぬいをします。

ぬい途中に模様番号が bL と表示（2〜3秒）され、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅したとき

ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを0.5cmぬったときに表示します。
ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。

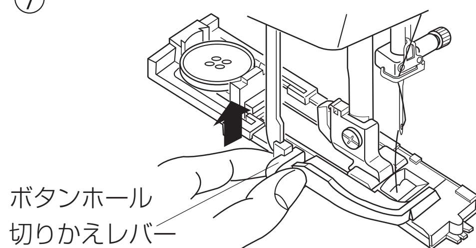


⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

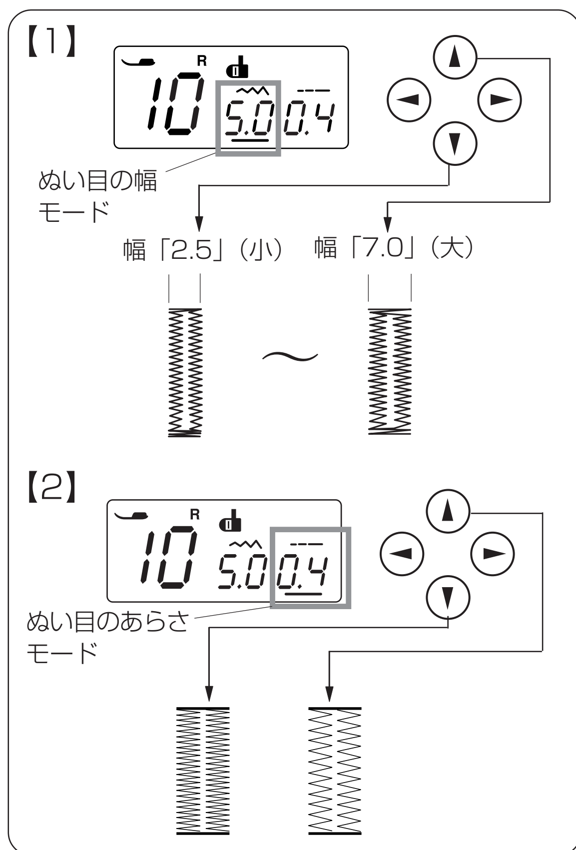
※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてから、シームリッパーで切り開きます。



⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。



★ぬい目の幅・あらさをかえるとき



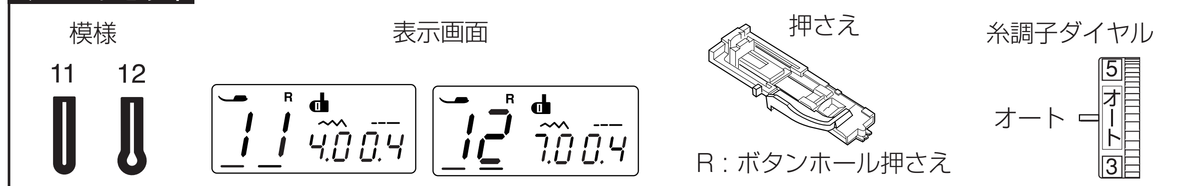
【1】 ぬい目の幅をかえるとき

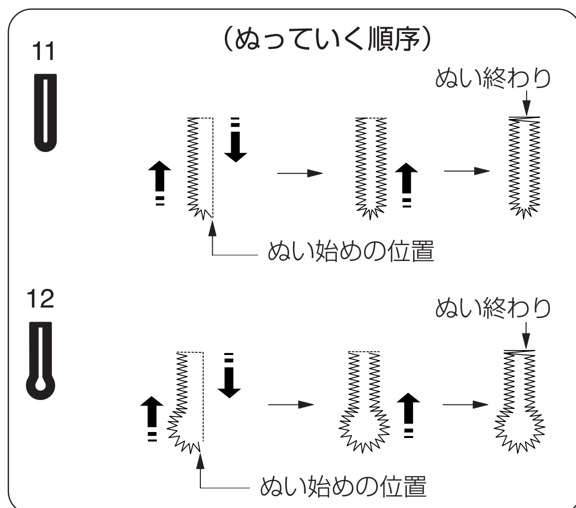
◄ ► ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は5.0です。
「▲ ボタン」、「▼ ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかえられます。
※2.5～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

【2】ぬい目のあらさをかえるとき

◄ ► ボタンで、ぬい目のあらさモードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は0.4です。
「▲ボタン」、「▼ボタン」を押すと、ぬい目のあらさがかえられます。
※ 0.3～0.8のはんいで0.1ずつかえることができます。

★ボタンホール 11、12のぬい





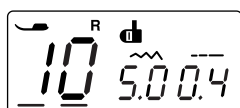
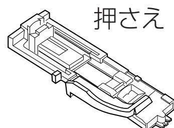
※ぬい方はボタンホール10（スクエア）と同じです。
(27～29ページをごらんください。)

※模様11のぬい目の幅は2.5～5.5のはんいで0.5ずつかえることができます。
模様12のぬい目の幅は5.5～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

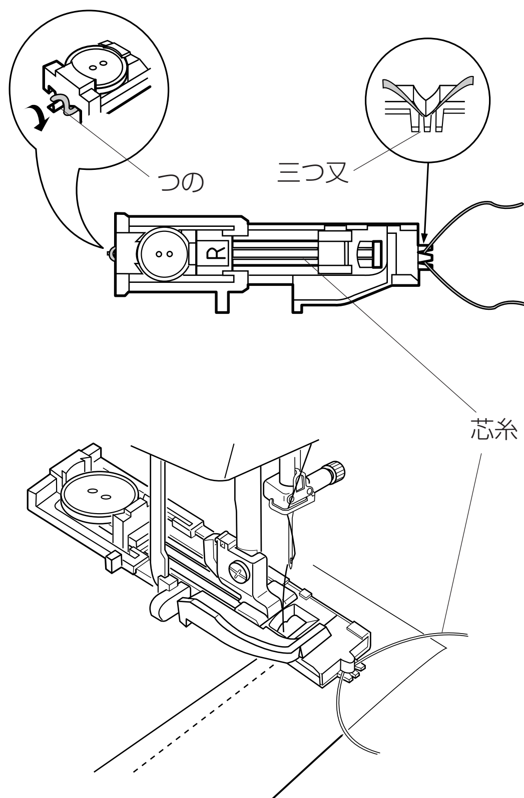
ぬい目のあらさは、両方とも0.3～0.8のはんいで0.1ずつかえることができます。

●芯入りボタンホール

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
10 		 R：ボタンホール押さえ	

①②

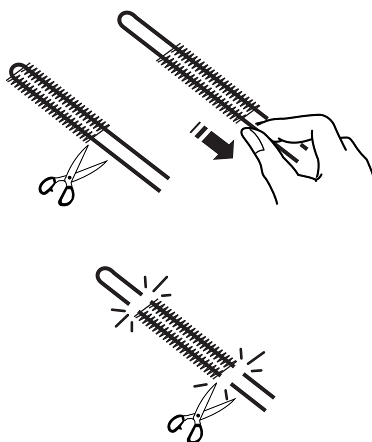


① 芯糸の 中央部を押 さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール（スクエア）の手順と同じようにぬいます。

※ 27～29ページをごらんください。

③



③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

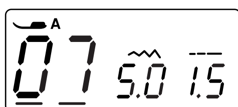
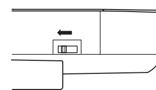
※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。

※ 穴のあけ方は、29ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けないときは、前後の芯糸を切ります。

●ボタン付け

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ
07 		 F：サテン押さえ	オート 	 （送り歯をさげます。）

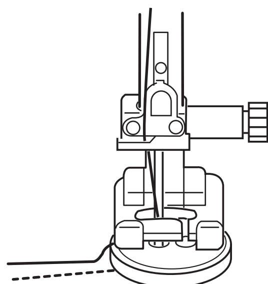
【準備】

（1） 送り歯をさげます。

（2） ぬい目の幅をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。

【ぬい】

① ②

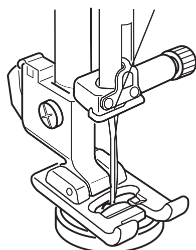


① はずみ車を手前にまわして針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。

※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針折れする危険があります。

③ ④ ⑤



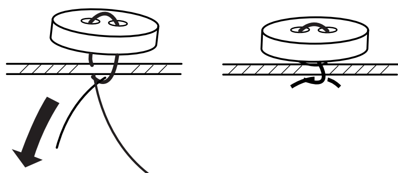
③ はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

④ スピードコントロールつまみを（ゆっくり）にセットします。

⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。

※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

⑥

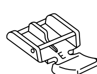
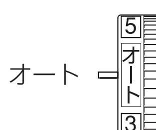


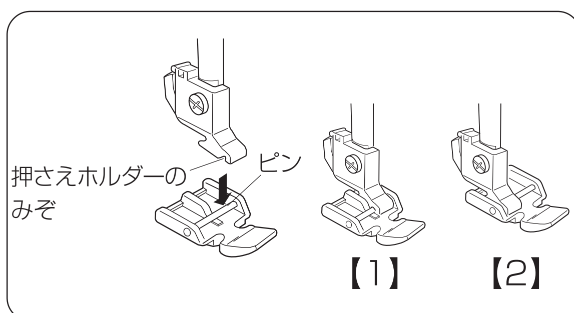
⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置に戻し、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

●ファスナー付け

ミシンのセット

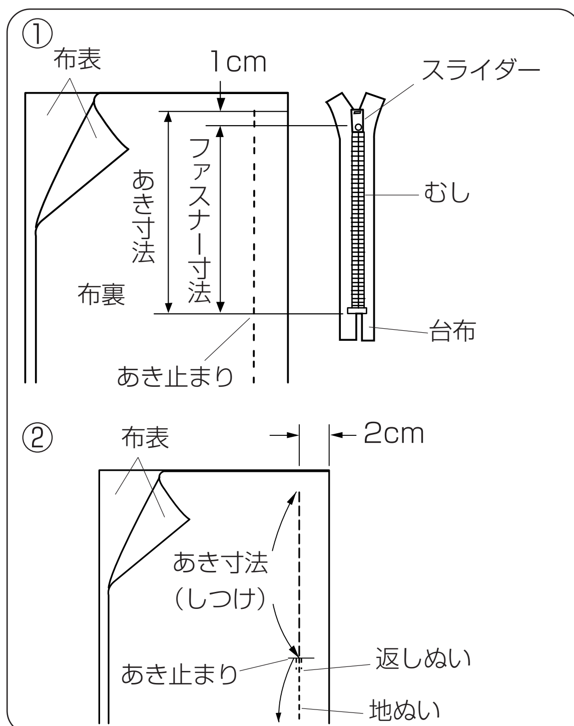
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
00 		 E：ファスナー押さえ	



【ファスナー押さえの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
右側をぬうときは、左側にセットします。

【1】左側をぬうとき
【2】右側をぬうとき

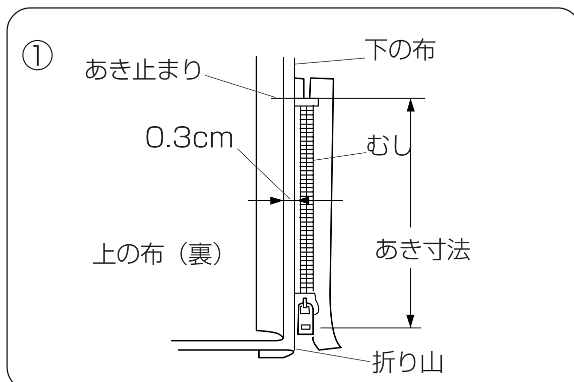


【準備】

① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

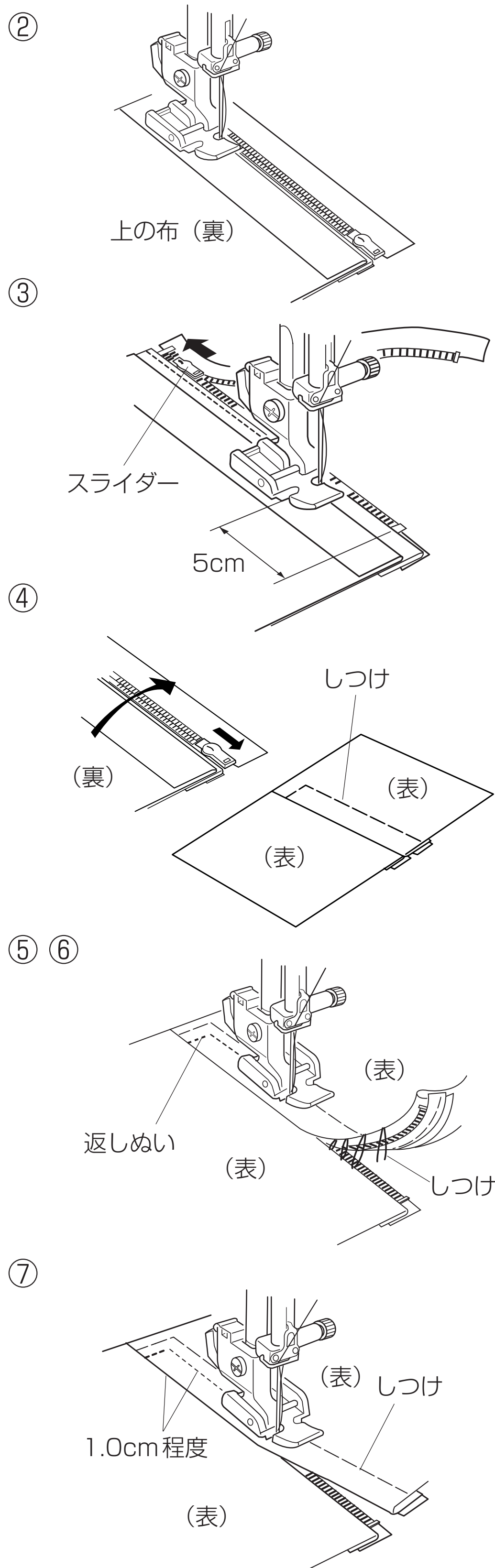
② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬいます。
あき部分は、ぬい目のあらさ5.0でしつけぬいをします。

※ しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。



【ぬい】

① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



② 押さえホルダーを押えの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ ファスナーの端から 5cm 位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④ ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは A 基本押さえを使用します。
しつけはほどきやすいように、ぬい目のあらさを 5.0、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。

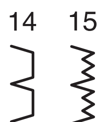
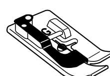
⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。
上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。

⑥ ファスナーの上側を 5cm くらい残したところで止め、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

●まつりぬい

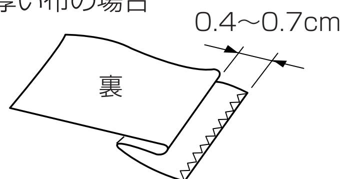
ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
			

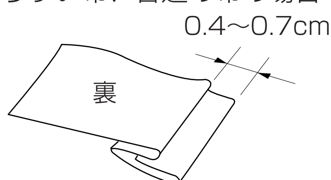
※模様15は、伸縮性のある布をぬうときに利用します。

【布の折り方】

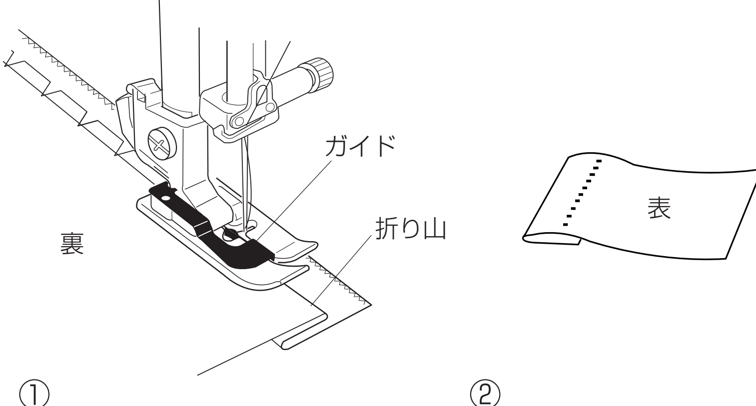
厚い布の場合



うすい布、普通の布の場合



【ぬい方】



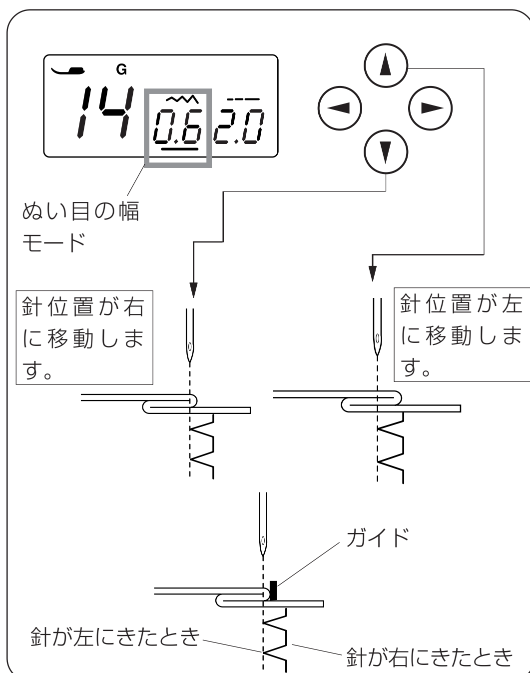
布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4〜0.7cmほどはみ出させます。

① ガイドに折り山を合わせ、針が折り山から外れないように針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布を表に返します。

※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかりすぎると表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

【針位置の調節】



◄ ► ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 0.6 です。

※表示0.6はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。

※模様 14、15 は、ぬい目の幅は変化せず模様（針位置）が左右に移動します。

針が折り山にかからない場合「▲ボタン」を押して針位置を左に移動させます。

針が折り山にかかりすぎる場合「▼ボタン」を押して針位置を右に移動させます。

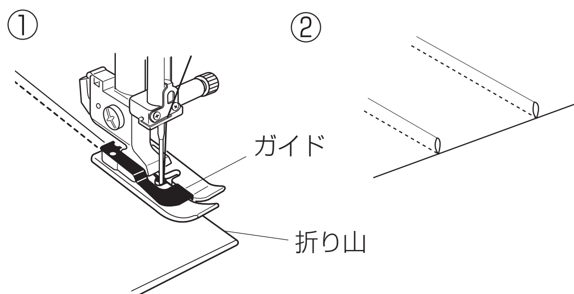
◎応用ぬい

●ピンタック

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
01	01 0.5 2.2	G：まつりぬい押さえ	オート

①　②



①布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

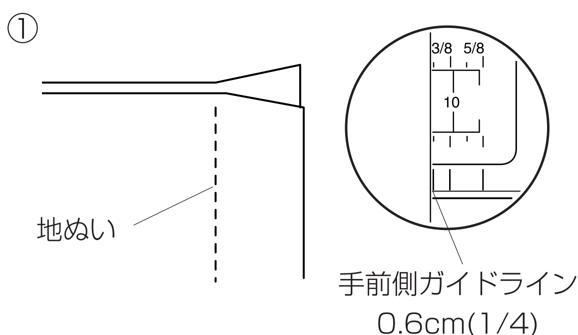
②ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●パッチワーク

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
09　17	09 5.0 1.5	A：基本押さえ	オート

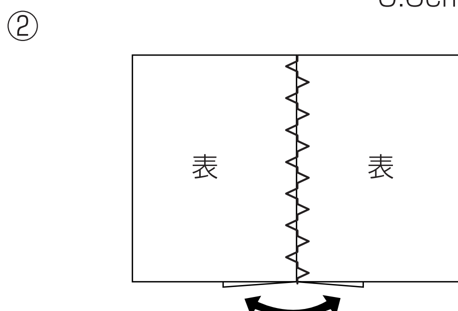
①



① 布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。

※ 地ぬいは、布端を針板の手前側ガイドライン0.6cm（1/4）に合わせてぬいます。

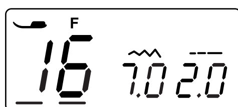
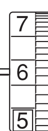
②

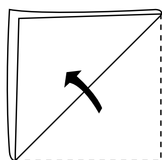


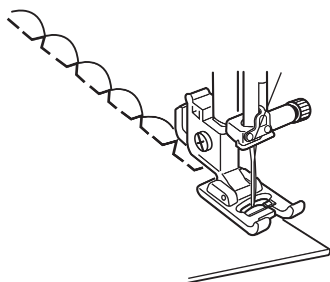
② 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●シェルタック

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
16 		 F : サテン押さえ	6～8 





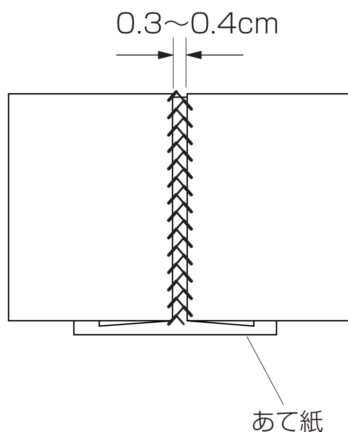
布をバイヤスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

※糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

●ファゴティング

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
17 		 F : サテン押さえ	オート 

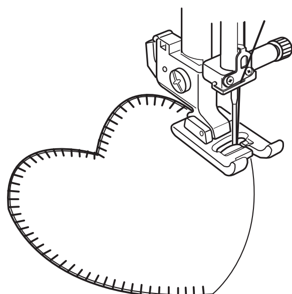


布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、下にあて紙をします。
布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。
最後にあて紙をとります。

●アップリケ

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
18	F 18 3.5 2.5	F : サテン押さえ	オート (5 オート 3)



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。針をアップリケ布の外側に落とし、アップリケ布のふちをぬっていきます。

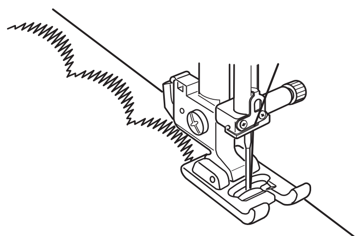
※カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を下位置にします。
押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。

● スカラップ

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
19	F 19 7.0 0.4	F : サテン押さえ	オート (5 オート 3)

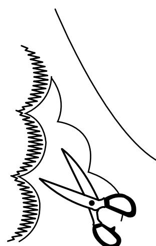
①



①布の表から、布端を 1 cmくらい残してぬいます。

※ 必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

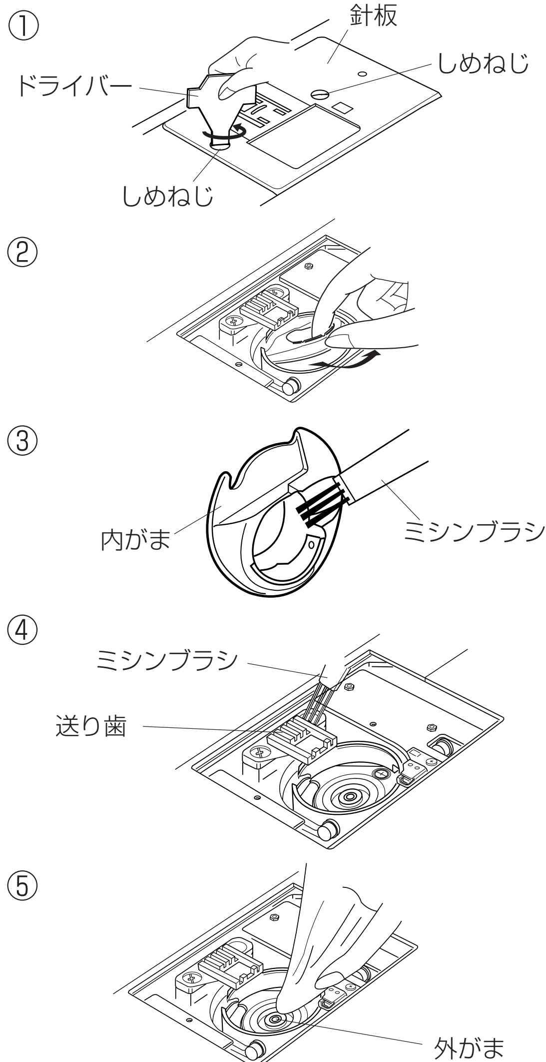
②



②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除



⚠ 注意

- お手入れのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。

けが、感電の原因になります。

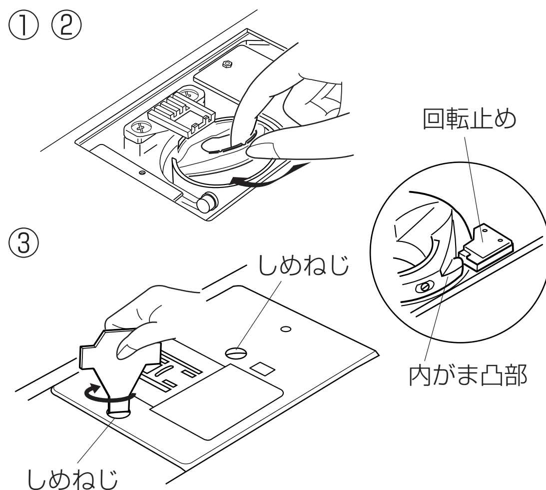
※ 針と押さえホルダーを外します。
※ ボビンを取り出します。
① しめねじを２個外し、針板を外します。
② 内がまの手前を上に引きながら外します。
③ 内がまを、ミシンブラシなどで掃除し布切れで軽くふきます。

④ 送り歯のごみを、ミシンブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

●内がまと針板の組み付け



① 内がまを差し込みます。
② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
③ ボビンを入れ、針板を取り付け、しめねじ２個をしっかりしめます。

※ 手入れが終わったら、忘れずに針と押さえホルダーを取り付けてください。

◎こんな表示が出た場合

●表示画面の対処方法

表　示	対　処　方　法
00 3.5 2.2	フットコントローラーを接続した状態で、スタート／ストップボタンを押したときに、フットコントローラー表示が点滅します。 スタート／ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。
bL 5.0 0.4	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。 ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。
8	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 糸巻き軸をもとの位置に戻すまで表示されます。
Lo 3.5 2.2	1.安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後15秒間のあいだに再スタートしようとすると表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。 2.糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。電源を切り不要な糸を取り除いてください。

●ブザー音の種類

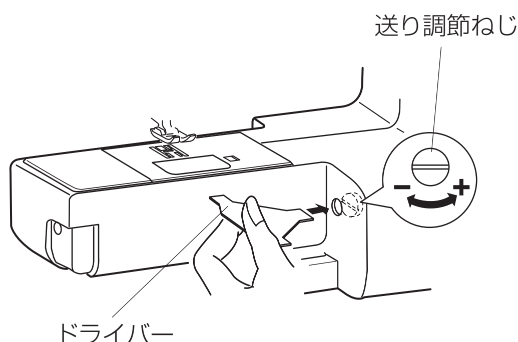
ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。糸調子皿から上糸がはずれている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4．針の付け方がまちがっている。 5．ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7．針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	16ページ参照 11ページ参照 12ページ参照 12ページ参照 20ページ参照 21ページ参照 12ページ参照
下糸が切れる	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4．下糸がゆるく巻かれている。	15ページ参照 39ページ参照 ボビンを交換する。 巻く速度を速くする。
針がおれる	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4．布に対して針が細すぎる。 5．模様に合った押さえを使用していない。	12ページ参照 12ページ参照 21ページ参照 12ページ参照 押さえを交換する。
ぬい目がとぶ	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．布に対して針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸のかけ方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	12ページ参照 12ページ参照 12ページ参照 16ページ参照 針を交換する。
ぬい目がしわになる	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布に対して針が太すぎる	11ページ参照 15、16ページ参照 12ページ参照
布送りがうまくいかない	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	39ページ参照 ぬい目をあらくする。 9ページ参照
ぬい目に輪ができる	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	11ページ参照 12ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
ボタンホールがうまくいかない	1．ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	28ページ参照 27ページ参照
ミシンがまわらない	1．電源のつなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。	5ページ参照 39ページ参照 14ページ参照 6ページ参照
音が高い	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	39ページ参照 39ページ参照
模様がくずれる	1．模様が正しく調整されていない。	模様の形の整え方を参照

【模様の形の整え方】

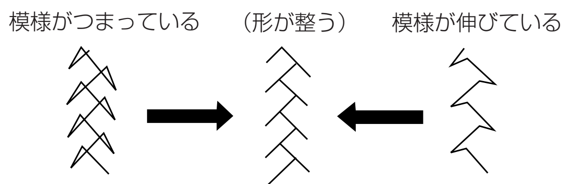


布の種類などによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。（補助テーブルを外します。）

例【模様 17 のとき】

模様がつまっているとき...... 送り調節ねじを「+」の方向にまわします。（形が整う）

模様が伸びているとき ....送り調節ねじを「−」の方向にまわします。（形が整う）



MEMO

MEMO

修理サービスのご案内

● お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
● 無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

● 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

● 取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

１）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
２）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
３）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
４）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
５）職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。

● 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
● 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

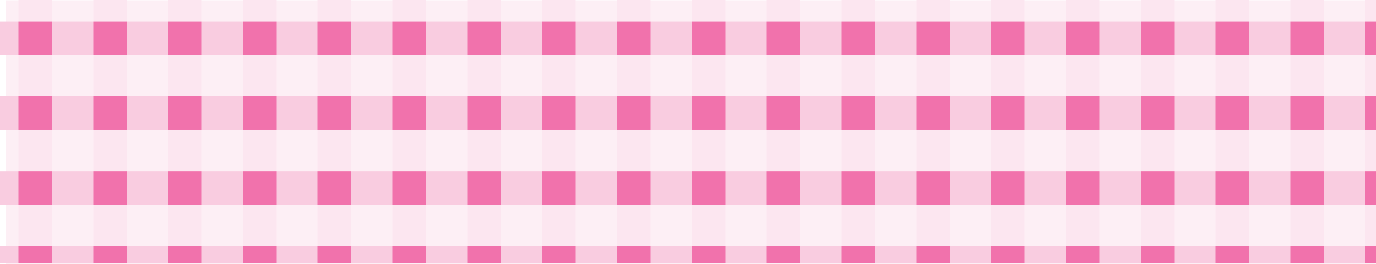
お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
お客様相談室　TEL. 0120-026-557（フリーダイヤル）
042-661-2600
受付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

仕　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	35W
外形寸法	幅 40.6cm ×奥行 17.4cm ×高さ 29.8cm
質　量	5.5kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時　毎分 700 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。



808-800-338